

## 第12回富良野地区定住自立圏共生ビジョン懇談会の開催結果について

### 1. 開催日時

令和5年1月20日（金）午後6時～午後7時10分

### 2. 開催場所

富良野文化会館 A会議室

### 3. 出席者

委員 9名（欠席委員 5名） オブザーバー 2名 事務局3名

#### ○出席委員

市町村名	団体名	職名	氏名
上富良野町	ふらの農業協同組合	北地区運営委員長	井村 悦丈
上富良野町	かみふらの十勝岳観光協会	会長	青野 範子
中富良野町	なかふらの観光協会	会長	日向 猛
中富良野町	中富良野町立病院運営委員会	委員長	安藤まゆみ
占冠村	占冠村商工会	経営指導員	小倉 睦
富良野市	ふらのスポーツ協会	専務理事	遠藤 和章
富良野市	ふらの農業協同組合	常務理事	菅原 義人
富良野市	富良野地域人材開発センター運営協会	専務理事	原 正明
富良野市	ラジオふらの	代表取締役	丸山 一敏

#### ○オブザーバー（町村職員）

市町村名	所属名	氏名
上富良野町	企画商工観光課企画政策班・主幹	岩田 守高
占冠村	企画商工課長	平岡 卓

#### ○事務局

市町村名	所属名	氏名
富良野市	総務部長	関澤 博行
富良野市	総務部企画振興課長	小笠原 竹伸
富良野市	総務部企画振興課企画振興係	永澤 知也

### 4. 議題

- ①第2次富良野地区定住自立圏共生ビジョン事業の取組結果について  
別紙資料1-1のとおり

※取組結果に関する各委員からの意見はなし

②その他、各委員からの主な意見について

委員名	意見等	回答
安藤委員	合同墓や火葬場といったといったものを圏域で取り組めないのか、各地域の状況について教えてほしい。	(事務局) 火葬場の改築・改修にあたっては、過去広域で設置できないのかという点で話題にあがることはありますが、緊急性もあることから、合意形成が図れないなかで改築等をおこなっている状況となっています。課題として認識させていただきます。
安藤委員	新庁舎でこどもの遊び場を整理いただき、他のまちのこどもも利用していると聞いています。まち単独では整備が難しい部分もありますので、大変すばらしいことだと思っています。こうした場を広域で作ることで集客等も図れるのではないのでしょうか。	
青野委員	関連で、公共施設について、沿線町村のグループが利用する場合は、利用料金が安くなることだと使いやすい。	(遠藤委員) 富良野スポーツセンターについては、従来富良野市民のみ減免対象としていた利用料について、例えば沿線の少年団利用については減免するといった措置を講じています。
日向委員	関連で、文化施設やスポーツ施設を建設するには莫大な費用を要する。沿線で施設の振り分けするなど効率的な整備を進めてはどうでしょうか。	(原座長) 文化施設、スポーツ施設等について広域で特色ある形で進めてはという意見かと思えます。現実問題として、「あそこのまちにあるのならうちのまちも」という声があることで、各町で施設整備を行っており、財政が厳しい現在では維持管理経費も地方の重たい負担となっています。こうした状況を理解した上で、ここは我慢するからここはうちのまちでということ、行政や議会に訴えていかないと、うまくいかない側面もあるかと思えます。
遠藤委員	部活動の地域移行についても沿線で取り組まないと単独の市町村では対応できないのではないか。	(原座長) 農家人口・戸数が減って、農地は力のある方が引き受けなければならないが、必ずしも土地条件が良いわけではなく、こうした土地条件を良くしていくことも必要かと思えます。
井村委員	農業の高齢化、担い手不足が大きな課題であり、このままでは農地の維持が大変厳しい状況となります。各市町村で新規就農を受け入れていると思うが、各町で温度差があると思います。	担い手についても、各市町村だけではなく地域全体の担い手ということで考えていくことが必要であり、情報を共有し、目標を立てていくことが可能であれば、定住自立圏の目標を少しでも達成することができるのでは
菅原委員	農協はすでに圏域で取り組みが進められています。農業の課題でいうと後継者や資材高騰、手のかかるメロン、すいかなどが作れなくなってきています。また、米や砂糖、牛乳が余ってきている、米の転作、農業のカーボンニ	

	ユートラル化などの多くの課題を抱えているところですか。	ないでしょうか。
丸山委員	今仕事でトラクター関係も行っていて、ある農業者からトラクターのGPSを活用した自動操舵の取り組みを進めています。こうした技術を活用して、農業者の負担を減らす取り組みも重要かと思います。ただ、そうしたサポートをする技術者も減っているのも現状となっています。	
小倉委員	商業系についても、後継者がいないことで事業者がどんどん減っていています。先ほどの説明でもありましたが、移住・定住を圏域で引き続き進めることも必要ではないでしょうか。	(事務局) 移住・定住を含めた交流人口を増やしなが ら、起業につなげる、また、ふるさと納税を 増やし、稼ぐ力をつけながら、関係人口増加 の取り組みを進めているところです。
青野委員	観光面ですが、上富良野町では今年から観光マップをつくるのをやめました。どこのまちでも同じような観光マップを作っています。みんなでお金を出し合って、広域件で一つ作れば良いのかと思っています。	(原座長) 観光客の視点でいうと行政区はあまり関係 がありません。作る側がきちんと理解しないと 届きたいターゲットに届かないということ になります。観光は行政的な発想ではうまく いかない場合が多く、専門的な機関にお金 と権限を渡し、責任も持ってもらう仕組みが 必要かと思います。
安藤委員	病院経営に関して、コロナ関係のお金が来たことで少し改善していると聞いたが状況はどうでしょうか。もし経営改善が図られる環境であればこれを契機に建物の改修とか改善に取り組むことができるのではないのでしょうか。	(原座長) 共有させていただきます。
丸山委員	ラジオの運営のなかで防災の役割がありますが、過去のブラックアウトで行政との情報連携がうまくいかなかったと考えています。情報の共有は重要であり、日常の訓練から連携していくことが必要と思っています。	(原座長) 情報を共有しやすい仕組みについて、工夫を しながら作っていくということかと思いま す。
丸山委員	圏域を移動する交通インフラ、特に移動手段のないこどもたちのために整備することが必要ではないでしょうか。	(原座長) 費用対効果という点もありますが、このこと だけで進めてしまうと地域が廃れてしまう ので、地域にとってのここだけは必要という ことについては、地域で費用対効果に負けない 議論が必要となるのではないのでしょうか。
安藤委員	圏域の医療機関に行く場合の交通費の負担軽減についてできないのでしょうか。	(原座長) バスに関しては、市町村で乗せないというこ とではなく、運輸局での判断となっているか
日向委員	関連で、現在占冠から富良野方面に行くバス	

	については、山部から乗車できない。こうしたことの改善はできないのでしょうか。	と思います。こうした実態があるということの情報共有と実際に地域の実情について、届けなければならない相手に訴えていくことが必要と思います。
青野委員	今回色々な貴重な意見が出ましたが、それぞれの自治体は共有させるのでしょうか。	(事務局) 結果については、各事務局へ報告するとともに首長の集まる会議で報告をさせていただきます。